

令和6年度 全国学力・学習状況調査における高萩市の結果

高萩市教育委員会

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成19年から小学校第6学年、中学校第3学年を対象として、毎年実施されています。令和6年度は、教科に関する調査は、小学校調査は国語及び算数、中学校調査は、国語及び数学を実施しました。また、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施しました。調査の目的は、以下の3点です。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

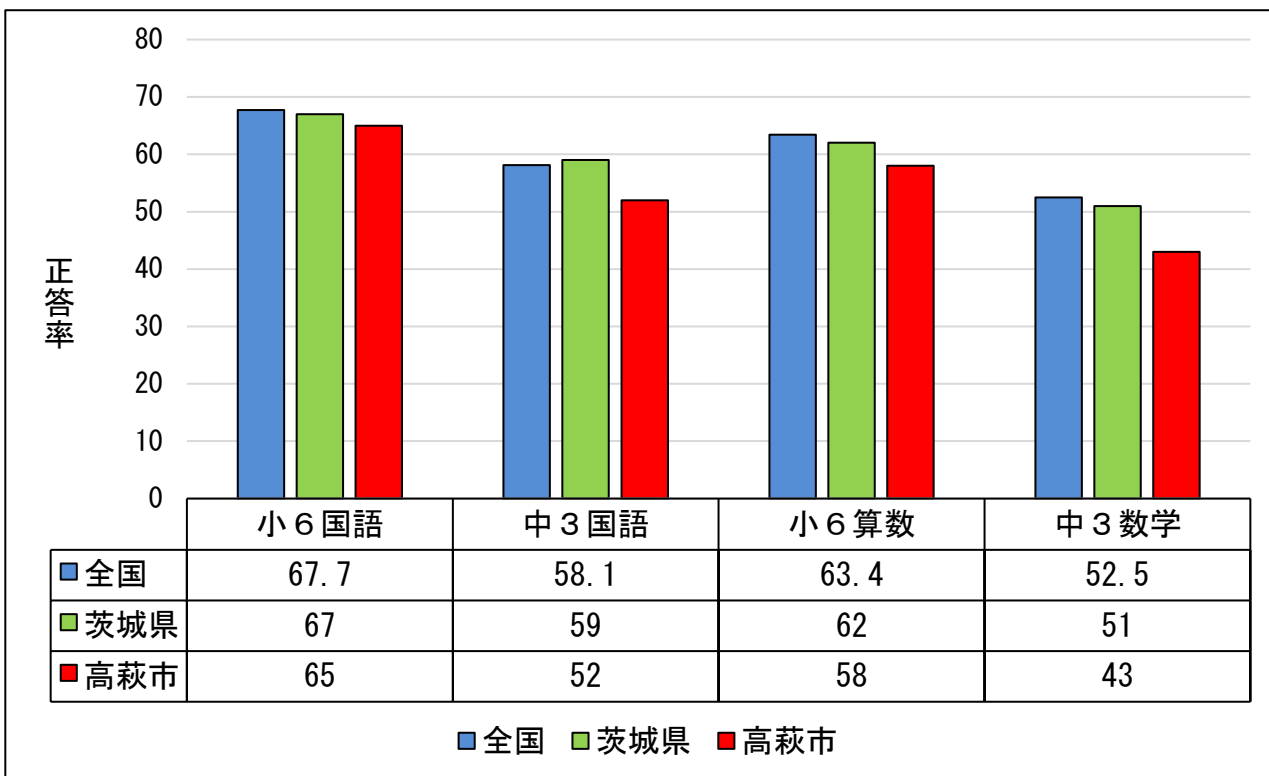
これまでの調査を通して、児童生徒の学力の定着・向上には、学校での教科指導の充実はもとより、子どもたちの生活習慣や学校環境も大きく関わっていることが明確になりました。

高萩市教育委員会では、学校、家庭、地域が互いに連携し、学習指導、家庭教育、地域とともにある学校づくりを通して、健やかな萩っ子の育成を推進していきたいと考えます。

このことから、以下のねらいで全国学力・学習状況調査結果を報告するものであります。

健やかな萩っ子の育成について、学校と家庭、地域が一体となった教育改善につなげるため保護者及び地域に向けて、高萩市の全国学力・学習状況調査結果を報告する。

2 高萩市の全国学力学習状況調査の結果、傾向、課題、今後の対策



(1) 傾向と課題

【小学校国語】

- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 4.9% 上回った。文章の空欄に入る内容を、取材メモを基にして書く問題である。自分の考えが伝わるように文章を書くためには、事実と感想、意見とを区別して書くなどして書き表し方を工夫することが大切である。ここでは、複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように、書くことを選び、伝えたいことを明確にし、書き表すことができていたと考えられる。
- 「話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 11.7% 下回った。オンラインで交流する場面における登場人物の話し方の工夫として適切なものを選択する問題である。話し言葉はそのままでは遡って内容を確認することができないため、複雑な構文や誤解されやすい同音異義語を避けるなど、様々な表現上の特質が生まれる。ここでは、「せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。」という発言を受け、話し言葉の特質を踏まえて、言葉の順序に気を付けて短い文に区切った話し方に変えたことを捉えられなかったことが課題である。
- 「学年別漢字配当表に示されている漢字の文の中で正しく使うことができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 9.9% 下回った。文中にある下線部を、漢字を使って書き直す「きょうぎ→競技」「なげる→投げる」問題である。学習指導要領では、第 5 学年及び第 6 学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと、また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことが求められているが、それらの基礎・基本の定着が不十分である。

〈指導にあたって〉

- ・日々の授業の中で、漢字の読み書きや、言葉の特徴や使い方など、基礎・基本の定着を確実に図っていく必要がある。
- ・話すことや聞くことにおいては、目的に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する場を設定していく。また、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫するように指導していく。

【小学校算数】

- 「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうか」をみる問題では、全国平均正答率をやや上回った。円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題である。この問題では、円周率が、円周の長さの直径の長さに対する割合であることを理解することが重要である。円周の長さを求める式として、直径 $10\text{cm} \times 3.14 = 31.4\text{cm}$ の計算ができていたと考えられる。
- 「除数が少数である場合の除法の計算をすることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 12.6% 下回った。 $540 \div 0.6$ を計算する問題であり、除数が小数である場合の除法の計算をすることができるようにすることが大切である。例えば、被除数の 540 を 10 倍して 5400、除数の 0.6 を 10 倍して 6 とし、 $540 \div 0.6$ を $5400 \div 6$ として計算することに課題が見られた。

- 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 11.3% 下回った。3 分間で 180m 歩くことを基に、1800m を歩くのにかかる時間を書く問題であり、二つの数量の関係に着目し、その関係を用いることができるようにすることが重要である。ここでは、速さが一定であることから、時間が 2 倍、3 倍、4 倍、…になれば、それに伴って道のりも 2 倍、3 倍、4 倍、…になるなど、時間と道のりが比例関係にあることを用いたり、1 分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m 歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係を用いたりすることに課題が見られた。

〈指導にあたって〉

- ・知識及び技能の確実な定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育てるためのアウトプット重視の授業を展開していく。
- ・数と計算の領域においては、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を能率的に処理できる場合があることに気づき、計算を工夫できるようにしていく。さらに、答えの求め方について、筋道を立てて説明できるように指導していく。
- ・変化と関係の領域においては、場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにしていく。また、道のりと時間が比例の関係にあることに着目して、速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解できるように指導していく。

【中学校国語】

- 「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 3.5% 上回った。話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題である。必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができており、A さんの「でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。」という発言が、B さんの経験が【フィルターバブル現象の資料】の「情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態」に当てはまるのかどうかを確認しようとした質問であると捉えることができたと考えられる。
- 「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 3.6% 上回った。本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題である。「和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします」という発言の内容が、〈解説〉の「情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態」に当てはまり、〈図〉の点線の内側に当たることを理解している。その上で、聞き手に分かりやすく伝えるために、〈図〉の点線の内側を指し示しながら、「〈図〉のこのあたりにいるような感覚ですね。」と発言していることを捉えることができたと考えられる。
- 「文の成文の順序や照応について理解しているかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 16.4% 下回った。物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選ぶ問題である。「すぐに知りたいことを教えてくれるし」を「知りたいことをすぐに教えてくれるし」のように直すことで、「すぐに」という語句と「教えてくれるし」という部分との関係が明確になることを理解できなかつたり、「知りたいことを」が主部であると誤って捉えてしまったりする誤答が考えられ、文の成分について理解に課題が見られた。

- 「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を16.8%下回った。漢字（みちたりた→満ち足りた）を書く問題である。「満」は、小学校第4学年の配当漢字、「足」は、小学校第1学年の配当漢字であるが、中学校のみならず、小学校での配当漢字の定着に課題があることがわかった。

〈指導にあたって〉

- ・「書くこと」においては、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねていく。様々な条件で文章を書く活動を多くとるとともに、生徒が日常の書く活動に生かすことを意識しながら学習できるように指導していく。
- ・物語を創作する際には、登場人物や場面、状況等を設定し、発端から結末までの展開を考えて書くことのほかに、それまでに読んだことのある物語の構成や展開を参考に書くこと、与えられた設定の中で展開を膨らませて書くこと、自分の経験を基に書くことなど、単元で取り上げる指導事項に応じて言語活動を工夫していく。

【中学校数学】

- 「筋道を立てて考え、証明することができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を18.7%下回った。点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくる時、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基に証明する問題である。図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つことを論理的に考察し表現することや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことが大切である。三角形の合同を証明するために成り立つ事柄に対する根拠を示したり、それらを的確に記述したりすることに課題が見られた。
- 「与えられたデータから最頻度を求めることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を18.4%下回った。障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻度を求める問題である。日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できることが大切であるが、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を正しく捉えて表現することに課題が見られた。
- 「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を17.2%下回った。 n を整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す問題である。数量及び数量の関係を捉え説明する場面では、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明するために、事象における数量やその関係を、文字を用いた式で表すことが大切である。連続する偶数の関係を表すには、偶数を「 $2n$ 」とし、連続する偶数の差を2と捉えて式に表すことに課題が見られた。

〈指導にあたって〉

- ・日々の授業の中で、習熟度に応じた指導を適宜取り入れながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確実に図っていく必要がある。
- ・数と式の領域においては、数量及び数量の関係を、文字を用いた式で表す活動を重視し、事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する活動の充実を図っていく。また、文字を用いた式で数量や数

量の関係を捉えることにより、考察の対象を一般的に表し説明できることや新たな関係を見いだせることなど、文字を用いることのよさを実感させていく。

- ・データの活用の領域においては、データの分布の傾向を比較して読み取り、その判断の理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導していく。
- ・図形の領域においては、図形の移動の性質を見出す活動を重視し、筋道を立てて考え、証明する活動の充実を図っていく。事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導していく。

(2) 今後の対策

【国語科教育充実のために】

○国語科教育充実のために、計画訪問の際に、次のような内容で指導改善のポイントについて、助言を行っていく。

- ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫する指導。
- ・自分の考えが話合いの話題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめる指導。
- ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する指導。
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約する指導。
- ・文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する指導。

【算数、数学科教育充実のために】

○算数、数学科教育充実のために、計画訪問の際に、次のような内容で指導改善のポイントについて、助言を行っていく。

- ・問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする指導。
- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする指導。
- ・二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察できるようにする指導。
- ・二つの数量の関係に着目、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにする指導。
- ・数量及び数量の関係を、文字を用いた式で表すことができるようにする指導。
- ・データの活用において、代表値の必要性和意味を理解し、代表値を求めることができるようにする指導。
- ・証明の方針を立て、それに基づいて証明できるようにする指導。

3 児童生徒質問から見える傾向 ※令和6年度「高萩市の学校教育」との関連を抜粋

		小学校6年生				中学校3年生			
	質問事項 ※「あてはまる」+「どちらかと言えばあてはまる」の割合(%)	本市 平均	差 (全国)	県 平均	全国 平均	本市 平均	差 (全国)	県 平均	全国 平均
共 育	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	82.0	6.2	77.7	75.8	82.6	6.7	76.1	75.9
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	84.3	3.6	81.7	80.7	85.0	6.4	79.1	78.6
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	87.5	6.7	82.8	80.8	79.7	1.8	78.2	77.9
	将来の夢や目標を持っていますか。	86.4	4.0	84.7	82.4	59.2	-7.1	68.0	66.3
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	94.1	4.2	89.1	89.9	95.2	4.8	90.8	90.4
響 育	自分には、よいところがあると思いますか。	85.3	1.2	82.7	84.1	88.0	4.7	82.7	83.3
	人が困っているとき、進んで助けていますか。	95.3	2.6	93.1	92.7	94.0	3.9	90.3	90.1
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	99.5	2.8	97.1	96.7	95.8	0.1	96.1	95.7
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	72.3	5.2	66.8	67.1	76.0	8.5	65.1	67.5
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	97.8	1.9	96.0	95.9	94.6	-0.6	95.4	95.2
強 育	朝食を毎日食べていますか。	91.9	-1.8	93.7	93.7	89.9	-1.3	91.7	91.2
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	82.0	-0.9	84.0	82.9	81.4	0.7	81.7	80.7
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	94.6	3.0	92.3	91.6	92.2	-0.3	92.9	92.5
	携帯電話・スマホやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	75.6	4.5	75.0	71.1	81.4	9.2	78.9	72.2
	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。	90.2	7.9	85.4	82.3	89.2	12.5	91.5	76.7
郷 育	学校に行くのは楽しいですか。	88.5	3.7	86.6	84.8	89.8	6.0	83.9	83.8
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	91.8	8.3	85.4	83.5	85.7	9.6	77.7	76.1
そ の 他	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 ※上段：2時間以上 下段：1時間以上	15.7 33.2	-7.8 2.1	22.8 35.6	23.5 31.1	23.4 40.1	-8.3 7.5	29.6 37.1	31.7 32.6
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 ※上段：3時間以上 下段：2時間以上	7.6 12.5	-4.0 2.6	11.6 13.4	11.6 9.9	13.8 23.4	-1.7 2.7	16.6 23.5	15.5 20.7

○「共育」に関して

本市では、児童生徒の協働的な学びや探究的な学びを通して、概ね主体的・対話的で深い学びの実現が図られていることがうかがえる。一方で、夢や目標を持ち、その実現に向けて学習に取り組むことができていない生徒（中学校）がいることから、キャリア教育や総合的な学習の時間の充実を図る必要があると考える。

○「響育」に関して

本市で実践している一人一人に寄り添う生徒支援や道德教育の充実が、児童生徒の自己肯定感や自己有用感の高さに結びついていると考える。今後は、さらに児童生徒の自己指導能力の育成を図るために、実体験を通して生活や学習への意欲や自信を高められるような特別活動や福祉教育の充実も図っていききたい。

○「強育」に関して

本市では、児童生徒の朝食摂取率や起床及び就寝時刻への意識が全国平均より低いことから、基本的な生活習慣の確立に課題があると考えます。児童生徒の実態や発達段階に応じた計画的な保健教育や、食に関する指導体制を再確立していくことで、児童生徒の健康・安全に対する意識の高揚に加え、自己管理能力の向上も図っていききたい。

○「郷育」に関して

本市では、コミュニティ・スクールの活性化を通して、「地域とともにある学校」の実践が図られていることから、学校や地域が大好きで大切に感じている児童生徒が多いことがうかがえる。今後は、E S D教育やラーケーション活用による体験活動を推奨することで、さらなる郷土愛の育成を目指したい。

○「その他」に関して

本市の児童生徒は、学校での授業に前向きに取り組んでいる一方で、学校以外での学習時間が、全国や茨城県の平均に比べて短いことがわかる。学習習慣の確立に課題があることから、一人一台端末を活用した家庭学習等をさらに促進していききたい。